

果的防除対策の生まれることに期待が寄せられている。

〈ポテト加工の昭和史〉

日本食糧新聞の創刊7000号を記念して「昭和の食品産業史」発刊の企画がなされ、その中で地方食品産業のあゆみとして、それぞれの地方の特産品加工の歴史がまとめられることになった。

北海道としては、てん菜糖、農産缶詰、それにポテト加工等を関係者が分担執筆することとなり、筆者は「ポテト加工の昭和史」を担当した。紙幅の関係で概要のみではあるが、明治中期のでん粉製造に始まる馬鈴しょの食品加工にまつわる北海道の歴史と、平成年代に引継がれた課題などについて、精一杯取り組んだつもりでいる。近く発刊されるが昭和に生れ育った者の一人として、全体を通読できるのが楽しみである。

〈む す び〉

馬鈴しょ問題が今後どのようなになるかは未知数であるが、世界的規模からみれば日本の

農業、なかんずく馬鈴しょ問題は点の存在であろう。しかし地域の農業にとっては重大な作物である。

食料は短期的には過剰傾向にあるものの、長期的視点では、異常気象の発生、農耕地の砂漠化、人口の増加、生産資材の供給源である石油資源の枯渇などのため、食料不足時代が必ず到来するとの大方の予測もある。経済合理主義の潮流の中で国内農業軽視の風潮があるが、豊かな緑と水資源に恵まれた日本の国土、食文化を支える農業を崩壊に導くことだけは避けなければなるまい。

北海道は日本の食料基地として足・腰の強い農業を育てていくことが必要だ。幸い前述のようにフロンティア研究会の活動に理解を示す農業外の人達の蔭の支えも芽生えている。農業者、関係者自らも、さらに努力する必要がある。

筆者自身も馬鈴しょが畑作の基幹作物として欠かせないことを、さらに多くの関係者に訴え、展望を拓くため微力ながら努力と活動をしていきたいと念じている。

(1990年7月記)

常識法話

友人の一人に、学校は小学三年しか行かないが、巨億の財産をつくった人物がいる。あるとき持ち込んだ事件に、合計1億4,500万円を、自分、女房、息子等の名義で貸付けて、全部ひっ掛った詐欺事件があった。その手口は、全部もっともな抵当物件の土地に案内して、実際は崖、雑草地、山林等を替玉に登記し、友人はそれに気づかなくて、4年経過した時点で、筆者が発見してやった。

彼は、ここを担保に提供するというと、

その通り登記されるものと信じていた。しかも、会社の名で借金をし、社長個人の連帯保証も共同保証もしていなかった。そして、その中には一旦登記した抵当権を、印鑑証明の有効期間の最後の日付を利用して、登記を完全に抹消している。何とか、刑事事件に告訴状を作ってやったら、依頼者が高利がバレるから民事にしてくれという。そういう程度の知識でも金が作れるという、改めて知識とは何かと疑問が噴出した。